

遊びで育まれる 主体性

～保育者・子どもとの関わり～

扇こころ保育園



子どもたちと一緒に 考える学びに向かう力

扇こころ保育園は「学びに向かう子どもたち」を主テーマとする。2018年の保育所保育指針の改訂により、幼児教育を行う施設として学びに向かう力を育むことが求められる。子どもたちにとって学びに向かうとは、どのような姿か考えたところ、「遊びを見つける」「工夫する」「興味・関心を持つ」「挑戦する」という4つが挙げられた。この姿は主体的な活動を通して見られると考えられる。

そこで、保育者が子どもたちにどのように働きかけ、どのような環境を提供することで学びに向かう力を育ていけるのか検証した。対象は2歳児クラスの新聞紙遊びとし、遊ぶ部屋の場所や異年齢との関わりを通して4つの姿がどのように育まれるのか考察する。

2歳児クラスの新聞紙遊び

2歳児クラス(以下「2歳児」)の新聞紙遊びを以下5段階に分け、段階ごとの子どもたちの4つの姿を追っていく。場所は日頃遊んでいる乳児フリースペースで実施。3歳児クラス(以下「3歳児」)と合同で遊ぶ際には、人数が多くなるため、乳児フリースペースと幼児室の2箇所に分けて実施する。

(1)2歳児のみでの新聞紙遊び

子どもたちの様子をみながら、遊び方を保育者が示す。

(2)2歳児に3歳児を混ぜた異年齢での新聞紙遊び

異年齢で遊ぶことに緊張する子どもの姿も予測されるため、保育者が3歳児と一緒に遊びながら、少しずつ興味を持てるようにする。

(3)異年齢で実施後の2歳児のみでの新聞紙遊び

保育者は新聞を渡すのみ、子どもたちの様子を見る。

(4)2,3歳児合同での新聞紙遊び

環境が遊びに影響するかに着目する。

(5)2歳児のみで新聞紙遊び

保育者は新聞を渡すのみ、子どもたちの様子を見る。



保育者の関わりや環境によって 変化する子どもたちの遊び

各段階の子どもたちの様子を下記に示す。

(1)2歳児のみでの新聞紙遊び

新聞紙を広げたまま布団にして遊び、保育者がちぎって見せると破く姿があった。

(2)2歳児に3歳児クラスを混ぜた異年齢での新聞紙遊び

保育者が3歳児と遊ぶことで2歳児が3歳児の遊びに興味を示した。



(3)異年齢で実施後の2歳児のみでの新聞紙遊び

保育者がきっかけをつくることで3歳児が遊んでいたように新聞紙をマントにした。

(4)2,3歳児合同での新聞紙遊び

幼児室で遊んだ子どもたちはテープを使ってベルトや食べ物を作ったり、美容院ごっこをしたりと遊びが発展した。

(5)2歳児のみで新聞紙遊び

保育者の関わりなしにお皿を自分たちで作り、ごっこ遊びが始まった。

2歳児のみでは保育者が遊び方を示すことで遊びを発展させた。異年齢との新聞紙遊びを取り入れたことで3歳児が2歳児に教えたり、2歳児が3歳児の真似をしたりと子どもたちの遊びが変化した。

保育者の関わりや環境が 子どもの学びに向かう力を養う

学びに向かう姿を育むためには、本園が挙げた4つの姿は確かに必要だったと言える。保育者は子どもたちの様子に合わせ遊びに興味・関心を持てるよう関わることで、遊びを見つけることができる。また、異年齢での関わりを通して3歳児の遊びを真似したい、挑戦したいという気持ちが芽生えたからこそ、2歳児の遊びが発展する影響につながったと考えられる。



環境においては、日頃遊んでいる部屋だと子どもたちは道具の場所がわかることから、自ら使うものを用意し遊びを工夫する事ができる。子どもたちが学びに向かう力を養うためには、保育者がどのように関わり環境を整えるかを考えることが必要である。

今後もこの検証だけに留まらず、遊びを通して子どもたちの主体性が育まれるような関わり方を持てるようにしていきたい。